

ダブル 東北農政局長賞などW受賞 「平田げんげんの会」

特別栽培米を生産する「平田げんげんの会」は、東北農政局が実施する「東北ブロック未来につながる持続可能な農業推進コンクール」で東北農政局長賞を、県が実施する「エコエリアやまがた推進コンクール」では優秀賞をダブル受賞しました。

3月30日には会員や県酒田農業技術普及課、酒田市、JA役員など約30人が参加し祝賀会を開きました。

「平田げんげんの会」は会員23人が約20haで化学肥料を5割減、農薬6割減で特別栽培米の「はえぬき」と「ひとめぼれ」を栽培する生産者組織です。



▲受賞の喜びと、会員への感謝を語る同会の石川敏行会長

「東北ブロック未来につながる持続可能な農業推進コンクール」では、持続可能な農業の確立を目指し意欲的に経営や技術改善に取り組んでいることなどが評価されました。一方、「エコエリアやまがた推進コンクール」では環境と調和した自然共生型農業の確立を目指していることなどが評価されダブル受賞につながりました。

同会は平成14年に設立し、首都圏の量販店や食品事業者と交流を深め販売先を確立。営農の継続が困難となった農地を作業受託し、地域農業の担い手としての役割もはたしています。



▲祝賀会で賞状を手にする石川会長と会員、関係者たち

環境保全と地域振興の両立を 共同宣言事業講演会を開催



▲講演する秋田大学教育文化学部林教授

平成25年に「地域農業と日本の食料を守り、持続可能な社会と地域を発展させる共同宣言」を締結し、共同宣言事業の推進に向け連携している遊佐町と生活クラブ連合会、当JAは4月12日、同町のパレス舞鶴で共同宣言事業講演会を開催しました。

生産者や同連合会、町民、JAの関係者など80人が参加。秋田大学教育文化学部の林武司教授が「水からみた鳥海山の環境・資源・文化」と題して講演し、水と鳥海山を中心とした同町の環境の特出性を学びました。

林教授は同町の水環境や文化・信仰が水と鳥海山に由来し



▲講演を聴く参加者たち

ていると説明し、「遊佐の生活、産業、文化は水と鳥海山とともにあり、そこが遊佐らしさと言える。環境を保全する努力を続け、そのうえで地域振興を図る資源として活用することが求められている」と呼び掛けました。

講演会参加者は「遊佐で生まれ育ったが、自分の生活は水と鳥海山がベースだと改めて気付かされた。今の環境が特別なものであることを忘れずに、環境保全と地域の発展の両立に努めたい」と話していました。

翌日には町役場で総会を開催し、平成29年度事業報告と平成30年度事業計画を協議しました。